

令和5年9月12日

実施報告書

文部科学大臣 殿

申請者（主催者代表）

団体名 株式会社 朝日新聞社

代表者職・氏名 代表取締役社長 中村 史郎

展覧会における美術品損害の補償に関する法律に基づいて令和5年4月9日に文部科学大臣と美術品補償契約を締結した展覧会が終了しましたので、実施報告書を提出します。

1. 開催概要

展覧会名	レオポルド美術館 エゴン・シーレ展 ウィーンが生んだ若き天才	
開催施設名	会期	入場者数
東京都美術館	令和 5 年 1 月 26 日～5 年 4 月 9 日	24 万人
●開催概要 19 世紀末ウィーンを代表する画家エゴン・シーレ(1890-1918)の初期から晩年までの絵画や素描を紹介する展覧会。ウィーンのレオポルド美術館の所蔵品を中心に、シーレ以外にもウィーン世紀末の芸術家たちの作品を紹介し、画家の生涯とその作品、同時代の芸術の諸相を展観した。 総来場者数: 242,293 人 主催者が実施したアンケートでは、「とても満足」「やや満足」の合計は全体の約 95%だった(回答数 10,988) メディアでも多数取り上げられ、シーレ作《ほおずきの実のある自画像》が複数の雑誌の表紙でも取り上げられるなど好評を博した。 テレビ: 日曜美術館、ぶらぶら美術館、美の巨人たち、ほか 雑誌掲載: 芸術新潮、和楽、家庭画報、美術手帖 ほか多数 新聞紹介: 朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、中日新聞、ほか一般紙、地方紙多数		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

<入場料の無料化・軽減> ・2023 年 1 月 26 日から 2 月 9 日までの 13 日間について、全ての大学・専門学校生を無料化 →該当期間に想定(8,775 人)を超える 8,899 人が来場、無料対象となった。 ・上記期間を除く 51 日間にわたり大学・専門学校生の 300 円分の入場料減免 →該当期間に 14,425 人の来場、入場料減免対象となった。 大学・専門学校生の入場料無料化・軽減措置を実施したことで、対象者のみならず広く SNS 等で周知・拡散され、若年層に向けて本展の文化的意義を広く知らしめる施策となった。 <展示作品の質的充実> ・ウィーン分離派のポスターを 2 点追加することとなり、他のポスター作品 4 点とあわせて当時のポスターにおける様々な美術的試みを来場者に幅広く紹介することができた。 <障害のある方の特別鑑賞会> 2023 年 3 月 13 日(月)に実施。悪天候にも関わらず、606 名が来場した。
--

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

特になし

4. 安全配慮に関する特別の対応

- ・一部重要な作品についてはデータロガーを設置した。
- ・作品返却時にクーリエ 1 名が直前でコロナ陽性となり、来日がかなわかった。輸送時の監督については、文化庁・山口様にもご相談のうえ、該当クーリエが担当するはずだった作品輸送のトラック・パレットへの積み込みは他のクーリエおよび東京都美術館、朝日新聞社が監督・対応、フランクフルト到着後は 1 名のクーリエが 2 便分を時間差で監督しながらウィーンへの陸送を行った。

5. 紹介事例・今後の改善点等

※国民の優れた美術品を鑑賞する機会の充実という観点から、主催者の自己評価等を記入。その際、他の美術館の参考となる好事例や改善点等を積極的に記入

・コロナ禍の行動制限がまだ解除になっていないタイミングでの展覧会開催であったため、時間当たりはかなり厳しい入場人数制限を掛けての運用となった。また同じ理由から1時間ごとの予約制も実施していた。結果、予約が満枠になったり、オンラインを使った予約制度にアクセスしづらい客層の来場をやや妨げたりする結果となった部分があったことは否めない。その後コロナ禍を理由とした行動制限が解除されたため、今後は国民の鑑賞機会拡大のためにも、なるべく人数制限を設けず、また煩雑な予約制を改善した状態、もしくは実施しないかたちでの展覧会の開催を目指したい。

・同じ理由で来場者数がコロナ禍前よりも伸び悩むことが予想され、減収とのバランスから作品借用のコストを平常時以上に抑えざるをえなかった。本来であれば 30 年ぶりのエゴン・シーレの個展の機会であったため、国家補償を最大限利用しながら、ウィーンのレオポルド美術館以外の海外所蔵館からも、多くのシーレの名品を集められたらより質の高い内容にできた。欧米アジア圏から幅広く名品を集めて大回顧展とした 2019 年開催の「クリムト展」のように、次の機会には借用先を広げて、より評価の高い名品の借用と展示を目指したい。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名 東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、株式会社朝日新聞社、株式会社フジテレビジョン

(収入) (支出) 単位＝円(税抜)

内 訳	決算額 (当初予算額)	内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入 (入場料、図録、グッズ等)	465,334,205 (4 億 3,512 万円)	企画準備等基本経費 (借用料、保険料、輸送費、印刷費等)	305,047,665 (2 億 7,329 万円)
その他の収入 (協賛金)	7,520,000 (1,000 万円)	設営・運営等会場関係経費 (広告宣伝費、展示施工費、警備費、会場使用料等)	167,834,000 (1 億 7,183 万円)
収入総額	472,854,205 (4 億 4,512 万円)	支出総額	472,881,665 (4 億 4,512 万円)